「日々の理科」（第 1096 号） 2017（H29),-7,-7

「七夕の日の教室」

お茶の水女子大学附属小学校　田中　千尋

「七夕」は決して宗教的な行事ではない。童謡にも歌われ、子どもたちにも親しまれている、日本古来の伝統行事である。本校でも、特に下学年では七夕を祝う飾り付けをよく見かける。

「笹の葉サラサラ・・・」の「笹」は、通常「竹」（孟宗竹）を使う。業者さんに頼めば、敵期に入手可能である。子どもたちが竹の梢に短冊や飾りを付ける姿は、素敵だと思う。難点は、竹の葉は根元から切ってしまうと、実に短命なことだ。せっかく新鮮な竹を入手しても、一日二日で下の写真のようにすべての葉が萎えれしまう。根元の切口にバケツを置いて水を張っておいても、あまり効果がない。また、活動後の竹の処分にも一苦労する。

そこで私は、スチレンボードに貼った模造紙に、竹の幹と葉の絵を描いて、そこに短冊を貼らせるようにしている。昨日、３クラス分作っておいた。

今日は七夕の日。子どもたちに好きな色の小さな短冊を配って、思い思いの願い事を書いて飾ってもらった。「笹が風で揺れているように貼ってくださいね」と言ったら、結構それらしく貼ってくれた。

これが完成した「七夕飾り」である。教室隅の柱に、強い両面テープで掲示してある。放課後に、ちょうど保護者会があって、お母様方も熱心に見ていた。私は保護者会で織姫と彦星の話をした。

「今日は七夕です。今夜は晴れそうなので、是非お子さんと星を見てください。東京でも織姫と彦星は見えます。天の川は見えませんが、お子さんはきっと、見えた！といいますので、ああ、見えたね、きれいだね・・・と言ってあげてください。織姫と彦星は、七夕の晩だけでなく、秋までずっと見えています。夏休みにチャンスがあったら、本物の天の川を見せてあげてください。」